

教科「情報」について

富山県教育委員会県立学校課
指導主事 北村 宜也

富山県高等学校教育研究会情報部会の研究紀要第13号の発行にあたり、会員の皆様方のこれまでの実践研究の取り組みに対し、深く敬意を表します。

さて、平成11年度の教科新設から現行学習指導要領の全面実施を経て、17年が経ちました。現在、本県では「社会と情報」8割、「情報の科学」2割の履修となり、教科の内容が教員側にもようやく定着してきたと思われまます。

しかしながら、すでに次期学習指導要領改訂の動きが活発化し、平成28年12月21日の次期学習指導要領の答申では、教科「情報」については、現行の必修修科目2科目選択制ではなく、共通必修修科目「情報Ⅰ」、選択科目「情報Ⅱ」となるとしています。共通必修修科目「情報Ⅰ」では、現行の「情報の科学」の内容が主となり、文理や卒業後の進路を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けることを目的としています。

「情報Ⅰ」の内容については、プログラミング及びモデル化とシミュレーション、ネットワーク、情報セキュリティ、データベースの基礎といった基本的な情報技術と情報を扱う方法を扱うとともに、情報コンテンツの制作・発信の基礎となる情報デザインも扱うこと、さらに、この科目の導入として、情報モラルを身に付けさせ、情報社会と人間との関わりについて考えさせ、内容を構成することが適当であるとされています。

プログラミング教育に関しては、小学校段階におけるプログラミングの体験を通じて「プログラミング的思考」を育み、中学校段階において、技術・家庭科（技術分野）で充実させ、その学習の経験を踏まえて、高校段階では、情報科の学習内容に広がりや深まりが生まれるようにする必要があります。

現在の状況では、プログラミング教育について、教員側に、とまどいがあると思われまます。プログラミング言語を学習することが目的でなく、プログラミングで問題解決能力を養うことが目的であるというスタンスで、どのような取り組みがよいか意識をしてほしいと思っています。

また、高等学校卒業までに育むべき情報に関わる資質・能力は、次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめにおいて示された「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って再整理する必要があります。情報の場合、情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能などを身に付けていることなど（知識・技能）、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだしたり、自分の考えを深めたりする力など（思考力・判断力・表現力等）、情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度など（学びに向かう力、人間性等）に整理されます。

このような変化や改革が必要な理由は、近年、「子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」「日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能になる」などと言われる時代を迎え、子供たちには、主体的に考え、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑むとともに、新たな問題の発見・解決に取り組み、想定外の問題にも立ち向かっていくことが必要となってくるからです。

先生方には、急激な変化に対応するためにも、アンテナを高くして、これまでの経験をもとにした従来の授業とICTの効果的な融合を目指され、今後ともより一層、実践研究を重ねられますようお願いいたします。そして、高教研情報部会が会員の先生方のさまざまな取り組みへの支援と、実践研究の発表や協議をとおして、本県の情報科教育のさらなる発展に大きな役割を果たされることをご期待申しあげます。